

市民が集まり、みんなで考える“東京のマナー” 『Tokyo Good Manners Meeting』開催 ～マナーを「守る」だけではなく「つくる」社会へ～

Good Manners & TOKYO

東京を舞台としたマナー向上プロジェクトの推進母体である一般社団法人Tokyo Good Manners Project（略称TGMP）は、3月25日に東京・表参道の「COMMUNE 2nd」において、新しいマナーの在り方を考えるイベント『Tokyo Good Manners Meeting／東京グッドマナーミーティング』を開催しました。

イベントでは、日本で活躍している外国人有識者による“海外から見た東京のマナー”を議論するパネルディスカッションや、東京都内の市民大学代表者が集まり地域に密着したグッドマナーの在り方を考えるトークセッションなどを展開。来場者と共に“東京のグッドマナー”を考え、マナーを守るだけではなく皆でマナーをつくる社会の創出へ向けた第一歩を踏み出しました。



<イベント概要>

イベント名：Tokyo Good Manners Meeting／東京グッドマナーミーティング

開催日：2017年3月25日（土）

会場：COMMUNE 2nd（東京都港区南青山）

主催：一般社団法人 Tokyo Good Manners Project

協力：シブヤ大学・自由大学・日本橋街大学・丸の内朝大学

実施内容：東京の「マナー」に関するトークセッション

市民大学に関する紹介・案内

激論！外国人から見た“東京のマナー”～ パネルディスカッション ～

TGMPでは、2016年9月の設立以来、東京が世界に誇るグッドマナーをキュレーションして作品として収蔵する『TOKYO GOOD MUSEUM』を展開し、情報発信を行って参りました。2年目となる今年は、市民の皆様と共に東京のマナーを考え、様々なアクションを実践してまいります。今回のイベントは、そのキックオフとして開催されました。

パネルディスカッションでは、日本で活躍する外国人有識者を代表して、日本酒の酒匠兼蔵人として活躍する米国出身のジャスティン・ポッツ氏、元トリップアドバイザー代表でインバウンド専門家として活躍する中国上海出身の原田 劉 静織氏、アートデザイナーとして日本の雑誌、広告などで活躍する豪州出身のエイドリアン・ホーガン氏が登壇。渋谷区長の長谷部健氏も加わり、2020年に向けた東京のマナーの在り方について意見が交わされました。



ジャスティン・ポッツ氏（酒匠兼蔵人）



原田 劉 静織氏（インバウンド専門家）

まずは登壇した皆さんに“東京のマナー”に対する意見を聞きました。3名の外国人ゲストからは、日本人の礼儀正しさ、丁寧さ、謙虚さ、みんなで決められたルールを守る姿勢などに対して高い評価があった一方で、「マナーは国によって基準が異なる。東京で良いとされるマナーが必ずしもすべての国の人にとって良いとは限らない」（ジャスティン・ポッツ氏）という意見も共通して寄せられました。

ホーガン氏はこれを「マナーは美意識に近い。言葉では表現できないもの」と語りましたが、世界中に様々な価値観や文化があるように、マナーに対する認識も国によって大きく異なります。大切なのは、“これが東京のグッドマナー”だということを訪れる外国人の方々に伝え、理解してもらうことなのではないでしょうか。この点について原田氏は、トリップアドバイザーで外国人向けのマナーコンテンツを作成したエピソードを挙げて「東京にとっては当たり前のマナーやルールであっても、外国人の人は知らないことも多い。それで“マナーが悪い”と評価されてしまうのは避けるべきでは」とコメント。多くの国から集まる人が同じ街で交流するには、異なる文化や価値観に理解を示したうえで、日本人が“良い”と思っているマナーを理解してもらうことが不可欠なのではないでしょうか。

とはいえ、2020年に向けて私たちはマナーを堅苦しく考える必要はなく、“東京のグッドマナー”をみんなが楽しく実践していくことが大切だとも、ゲストの皆さんは語ります。ホーガン氏は「日本で様々な初めての経験をする人は、緊張しているはず。その場を楽しんでもらうための伝え方は大切」と語り、またポッツ氏も「マナーや文化を“見える化”するためには、もっと日本人が楽しむことが大切。言葉で伝わらないことは、実際にやってその場を味わってみるのが一番で、例えば日本ならではのお酒の楽しみ方を伝えるには、日本人がもっとお酒を楽しめばいい。楽しい機会を作れば、そこで自然とマナーや文化が理解されるはず」と語りました。

一方、渋谷区長の長谷部氏は、これからの渋谷について「パリ、ロンドン、ニューヨークなどと並ぶ成熟した国際都市を目指すためには、ダイバーシティ＝多様性が重要だ」とした上で、マナーについては様々な価値観が集まり混ざり合う中で相互理解からマナーが生まれることの重要性を指摘。「お互いの違いに寛容になる多様性の中にも調和が必要。大切なことは街のマナーが良くなり続けること」と語りました。



エイドリアン・ホーガン氏（アートデザイナー）



長谷部健氏（渋谷区長）

市民大学の代表者が“これからの東京のマナー”を語り合う ～トークセッション～

続いて行われたトークセッションには、シブヤ大学の左京泰明氏、自由大学の岡島悦代氏、日本橋街大学の渡邊健太氏、丸の内朝大学の山本寛明氏が登壇し、各市民大学における取組みを紹介したほか、これからそれぞれの地域の特徴を活かしてどのようなマナーを生み出していきたいかなどについて意見が交わされました。

これからの東京マナーについて、古き文化が残る日本橋からは「江戸文化の再生に挑戦したい」（渡邊さん）、自転車利用者が増加する青山エリアからは「人に街にやさしい自転車マナーを発信したい」（岡島さん）などの意見が寄せられ、2020年に向けた街づくりからコミュニティの共通理解として新しいマナーを生み出していくことに意欲を見せました。



日本酒と共に味わう、日本のマナー

イベントの最後には、再びジャスティン・ポッツ氏が登壇。酒匠兼蔵人として活躍するポッツ氏が、エイドリアン・ホーガン氏を“お客様”として招いて、日本酒を楽しみながら日本人のマナーについて語り合いました。

ポッツ氏は、お酒の味わいに合わせたグラス選びのポイントや、自身が日本酒に魅了されたエピソード、雪見酒や花見酒など日本の酒文化の素晴らしさを披露した上で、「日本酒がビールやワインのようにグローバルな文化になれば」とコメント。また、お酒の席におけるマナーは国によっても空間によっても大きく異なるとした上で、「日本酒の素晴らしさが伝わる空間を生み出し体験する機会を多くの外国人に提供しながら、マナーだけでなくその背景にある文化やフィロソフィを知ってもらうことが重要だ」と語りました。

TGMP展示ブース

今回のイベントでは、多くの登壇者から“マナーを伝えること”の重要性が語られましたが、会場には『TOKYO GOOD MUSEUM』のパネルを展示して、集まった来場者に東京が世界に誇るグッドマナーを紹介しました。

今回展示したのは、世界一清潔な空港である「羽田空港の清掃スタッフ」、通勤ラッシュで行われている「整列乗車」、丸の内のビジネスパーソンによって清掃された「ゴミひとつない道」、後から来たお客さんのためにみんなが協力してスペースを作っていく赤羽の「定員のない酒場」など。会場を訪れた外国人の来場者は、関心を持ったパネルについて説明員に話を聞いたり、アンケートに答えたりしながら東京のグッドマナーに理解を深めていました。



「Tokyo Good Manners Project」について

団体概要

- 団体名 : 一般社団法人 Tokyo Good Manners Project
- 設立年月日 : 2016年9月1日
- 活動内容 : TOKYO GOOD MUSEUMの運営をはじめとする、都民および東京を訪れる観光客のマナー向上を目指した活動 ※TOKYO GOOD MUSEUMの概要は次頁をご参照ください。
- プロジェクトステートメント :

駅の整列乗車。

銭湯でのかけ湯。ゴミひとつない道。

雨の日にすれちがうとき、すこし閉じる傘。

東京のグッドマナーは、

ふとした気づかいでできている。

相手への思いやりや、

その場の空気をよくする心配り。

ちがいを認め楽しむマインド。

東京の人たちにとっては意識すらしない

癖みたいなことかもしれないけれど。

それは、世界にひとつの、東京のグッド。

東京で暮らすひとりひとりが

自分たちのグッドマナーに誇りをもつために。

東京を訪れる世界中の人々に

文化としてのグッドマナーを楽しんでもらうために。

そして、東京を世界に誇れる

心地のよい街にしていくために。

TOKYO GOOD MUSEUM

かたちのない美術館、はじまる。

Tokyo Good Manners Project パートナー (50音順 2017年3月現在)



「Tokyo Good Manners Project」活動状況

TOKYO GOOD MUSEUM

Tokyo Good Manners Projectの想いを具現化する活動です。東京全体を「かたちのない美術館」と見立て、東京のグッドマナーやそれを構成するヒト・モノ・コトを「作品」として収蔵します。「TOKYO GOOD MUSEUM」は、随時、収蔵作品が増えています。作品はウェブサイトや広告、SNSを通じて世の中に発信していきます。

サイトURL : <https://goodmanners.tokyo/museum/>



「美しく包む、美しく贈る」

感謝や祝福の思いを華やかに演出するラッピング



「思いも運ぶ引越し屋」

海外からも注目を集める、技術を越えた細やかな気配り



「譲り合う市民ランナー」

反時計回り、一列走行など、安全に気づかう皇居ランナー

TOKYO GOOD MUSEUM マガジン

TOKYO GOOD MUSEUMの収蔵作品を中心に、幅広い東京のGOODを集めたマガジン（日本語版・英語版）を発刊します。新しい形の東京ガイドとして、街を歩きながら新たな東京の魅力を感じられる内容をお届けします。

第1弾は、「渋谷」と「浅草」にフォーカスした特集で、2017年3月末からの発刊を予定しています。



市民大学・マナークリエーション講座

TGMPパートナーのシブヤ大学・自由大学・日本橋街大学・丸の内朝大学にてTGMPと連携したマナークリエーション講座を順次実施しております。



ダイバーシティ&インクルージョン

マナーを「人付き合いを円滑にするちょっとしたコツ」と捉え、等身大のアクションを通じて、渋谷の街から人に思いを馳せる空気を創る。



食から学ぶ江戸の粋マナー

食事をするときのお行儀的マナー講座ではなく、「粋である」というマナーを江戸っ子たちの食に学ぶ講座



TOKYO自転車ライフ

自転車マナーの向上を楽しく、センス良く啓発し東京の様々な自転車カルチャーを紹介



丸の内の朝から生まれるグッドマナー

ビジネスパーソンが考えるグッドマナーとして、丸の内内の街をよりよく、楽しく過ごす為のアイデアをクリエーション